

会社の概要

会社名	東洋合成工業株式会社
本社	東京都台東区浅草橋1丁目22番16号 ヒューリック浅草橋ビル8階
設立	1954(昭和29)年9月27日
資本金	1,618,888,703円
従業員数	716名(2020年9月30日現在)
事業内容	・ディスプレイ(液晶並びに有機EL)用、並びに半導体用として各露光波長に対応した(紫外線、KrF、ArF、EUV各世代)感光材、ポリマー製品 ・半導体・電子材料向け高純度合成溶剤、香料向け化学品、液体化学品の保管管理・物流倉庫業
ホームページ	https://www.toyogosei.co.jp/

役員

代表取締役社長	木村 有仁	常勤監査役	森 寧
常務取締役	出来 彰	監査役	宮崎 誠**
取締役	平澤 聡美		越山 滋雄**
	宮澤 貴士		
	渡瀬 夏生		*社外取締役
	鳥井 宗朝*		**社外監査役

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月下旬
剰余金の配当の基準日	3月31日 中間配当を実施するときは9月30日
定時株主総会基準日	毎年3月31日 ※その他必要がある場合は、予め公告いたします。
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により行います。 公告掲載URL https://www.toyogosei.co.jp/ir/koukoku.html ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株式の諸手続き	口座を開設されている証券会社までお問い合わせください。 特別口座をご利用の株主様は、みずほ証券株式会社およびみずほ信託銀行株式会社0120-288-324(フリーダイヤル)までお問い合わせください。

東洋合成工業株式会社

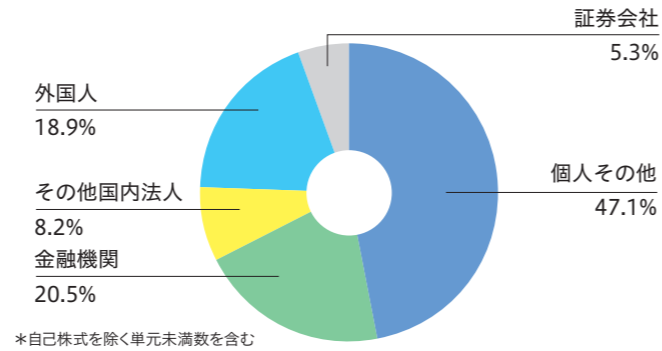
〒111-0053 東京都台東区浅草橋1丁目22番16号
ヒューリック浅草橋ビル8階
TEL 03-5822-6170



株式の状況

発行可能株式総数	30,000,000株
発行済株式総数	8,143,390株
株主数	4,884名

株式の分布状況



*自己株式を除く単元未満数を含む

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
木村 有仁	1,094	13.8
木村 愛理	583	7.3
クレディ・スイス証券株式会社	318	4.0
株式会社千葉銀行	298	3.8
株式会社きらぼし銀行	298	3.8
木村 正輝	278	3.5
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	248	3.1
MSIP CLIENT SECURITIES	246	3.1
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	240	3.0
株式会社TGホールディング	200	2.5
公益財団法人東洋合成記念財団	200	2.5

当社は、自己株式を206千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
また、持株比率は自己株式(206千株)を除外して計算しております。
上記大株主の木村正輝氏は、2020年9月29日に逝去されましたが、2020年9月30日現在において名義書換未了のため、株主名簿上の名義で記載しております。

TOYO GOSEI

第71期 第2四半期報告書

2020年4月1日 ▶ 2020年9月30日



業績ハイライト

決算概要

当第2四半期は、電子材料業界における通信・データセンター向け需要の増加や5Gの本格始動等により、先端半導体向けを中心に感光材・高純度溶剤の販売が増加しました。また香料材料も堅調に推移したことにより、売上高は前年同期比5.3%増の12,835百万円、営業利益は、同11.9%増の1,306百万円、経常利益は、同20.0%増の1,277百万円、四半期純利益は、同24.8%増の865百万円となりました。

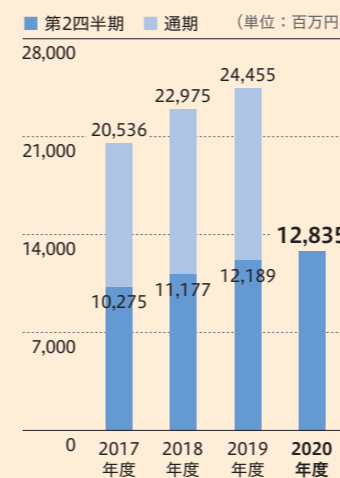
	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	前年同期比
	12,835百万円	1,306百万円	1,277百万円	865百万円	5.3%
					11.9%
					20.0%
					24.8%

当第2四半期のポイント

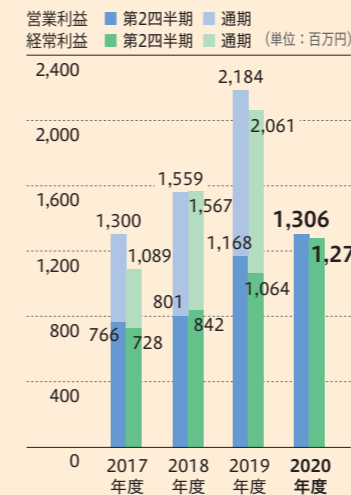
- POINT 1 半導体・電子材料関連の需要拡大により、前年同期比で増収・増益
- POINT 2 感光性材料セグメントは、先端半導体領域を中心に製品販売が拡大
- POINT 3 化成品セグメントは、ロジスティック部門は新型コロナウイルス感染症の影響で、国内の化学品需要が鈍化し荷動き量に落ち込みが見られたものの、電子材料関連、香料材料関連の販売が増加

業績概要

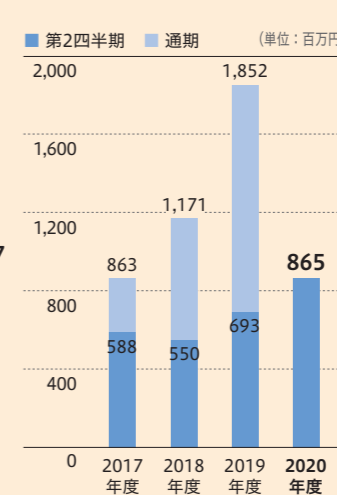
売上高



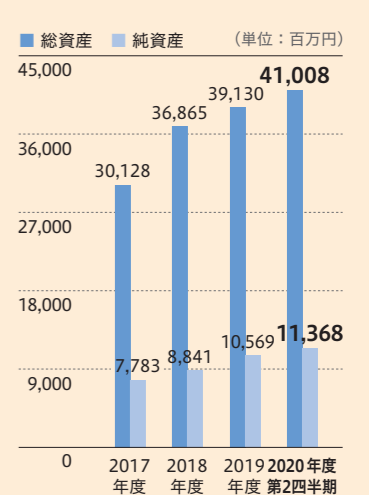
営業利益／経常利益



四半期(当期)純利益



総資産／純資産





代表取締役社長

木村 有仁

中期経営計画の達成に向けて 全社一丸となって取り組んでまいります

当第2四半期の決算概要

当第2四半期における国内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が続き、外出自粛、内需の下振れなどにより、失業率の上昇が見られたものの、一部に経済活動の再開や輸出に持ち直しの動きが見られました。世界経済においても同様に、米国や欧州を中心に持ち直しの動きが見られました。

また、電子材料業界においては、AI、IoT、5G等の情報通信技術の普及、感染症拡大の影響を受けテレワーク・動画利用の拡大、データセンターや通信システム向け先端半導体の好調が続きました。

しかしながら、世界規模で感染症拡大の第2波も警戒され、経済活動が再び停滞する恐れに加え、米中対立、原油相場、各国・地域における動向、為替相場の先行きなど、注視が必要リスクが継続しております。

このような状況のもと、当社は従来からのお客様との関係強化、積極的な拡販への取り組みに加え、在宅需要拡大による半導体・電子材料需要の増加を背景に、当第2四半期決算は、売上高12,835百万円(前年同期比+646百万円、+5.3%)、営業利益1,306百万円(同+138百万円、+11.9%)、経常利益1,277百万円(同+212百万円、+20.0%)、四半期純利益865百万円(同+171百万円、+24.8%)と増収増益となりました。

セグメント別概況

感光性材料セグメントでは、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う外出自粛・制限による半導体、ディスプレイ需要は一巡したものの、スマートフォン用途並びに米国による中国への半導体製品の販売規制前の需要拡大などにより、先端半導体の生産増加が続き、感光材、ポリマーともに先端領域製品が好調に推移しました。これも皆さまのご支援の賜物と心から感謝申し上げます。

また、中長期の需要増加に対応するため、2017年から進めている生産能力増強投資の柱となる待望の新製造棟が2020年10月に竣工しました。これにより、今後増加する先端感光材製品を供給できるキャパシティを確保しやすくなりました。今後も安定供給を

果たし、事業の拡大とともに大きな社会的責任を果たしてまいります。

化成品セグメントの電子材料関連分野は、一時的なスマートフォンや自動車の販売台数減少の影響はあったものの、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策に伴う在宅勤務の拡大などによる通信・データセンター向け需要の増加や5Gの本格始動等により需要は拡大しました。香料材料分野では、トイレタリー向けの合成香料は堅調に推移しました。今後も品質の安定化および安定供給に努めてまいります。

またロジスティック分野では、新型コロナウイルス感染症の影響で、国内の化学品需要が鈍化し荷動き量に落ち込みが見られたものの、顧客満足度向上に努め、タンク契約率は引き続き高水準で推移しました。

中期経営計画「TGC300」の進捗

当期は、5ヵ年の中期経営計画「TGC300」の3年目となります。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う不透明な状況が続くなか、巣ごもり消費の拡大に伴う半導体、電子材料分野の需要増加や、香料分野も堅調に推移したことにより、上半期の業績予想値比で、売上高+2.7%、経常利益+14.1%超過となりました。今後も不安定な国際政治状況が続くとみられますが、引き続き「TGC300」で掲げる計画値の達成に向けてまい進してまいります。

株主還元について

株主の皆さまへの還元につきましては、安定配当の維持を基本としつつ、業績、配当性向、財務バランスなどを総合的に勘案して決定しております。これらの方針を踏まえ、当期の中間配当は、期初計画通り、1株当たり10円とさせていただきます。今後も、事業成長のための投資と、財務バランスとを勘案しつつ、社業の拡大とともに、株主の皆さまへの還元を行っていきたくと考えております。

株主の皆さまにおかれましては、何卒、当社にご理解を賜り、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

TOPIC

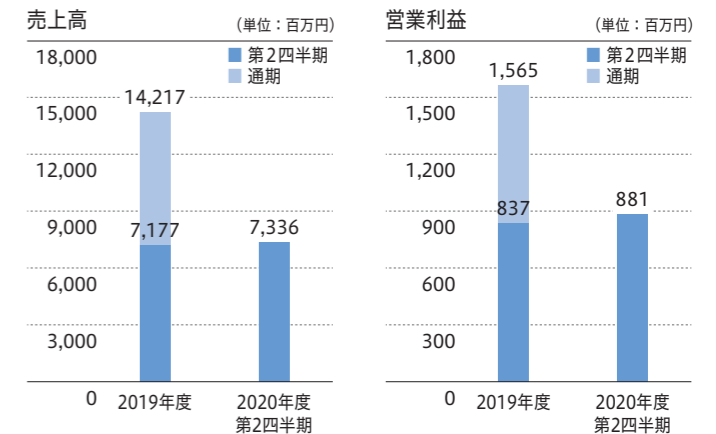
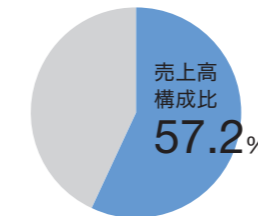
経済産業省「2020年版グローバルニッチトップ企業100選」に認定

当社は、グローバル市場でもトップクラスのマーケットシェアを保有する独自性の高い製品・サービスを開発する企業として、経済産業省認定「2020年版グローバルニッチトップ(GNT)企業100選(素材・化学部門)」に選定されました。経済産業省認定「GNT企業100選」は、国際市場の開拓に取り組んでいる企業のうち、ニッチ分野で独自の地位を築いている企業を顕彰するもので、公募された249社のうち113社が選定され、当社の感光性材料が認定を受けました。



セグメント情報

感光性材料セグメント

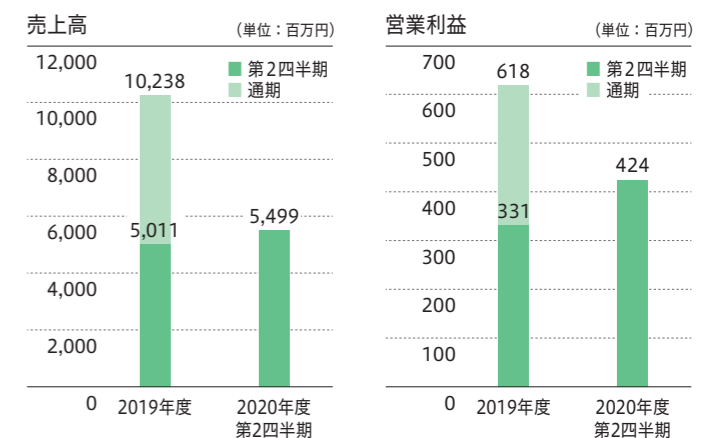
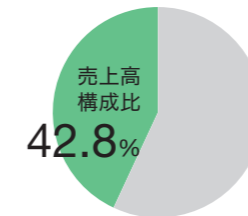


業績の概況

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う外出自粛・制限による半導体、ディスプレイ需要は一巡したものの、スマートフォン用途並びに米国による中国への半導体製品の販売規制前の需要拡大などにより、先端半導体の生産増加が続き、感光材、ポリマーともに先端領域の製品売上が好調に推移しました。

この結果、同セグメントの売上高は7,336百万円(前年同期比+158百万円、+2.2%)、営業利益は881百万円(同+44百万円、+5.3%)となりました。

化成品セグメント



業績の概況

電子材料関連は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策に伴う在宅勤務の拡大などによる通信・データセンター向け需要の増加や5Gの本格始動等により売上は増加しました。また香料材料関連では、トイレタリー向けの合成香料は堅調に推移しました。ロジスティック関連は、新型コロナウイルス感染症の影響で、国内の化学品需要が鈍化し荷動き量に落ち込みが見られたものの、タンク契約率は引き続き高水準で推移しました。

この結果、同セグメントの売上高は5,499百万円(前年同期比+487百万円、+9.7%)、営業利益は424百万円(同+93百万円、+28.4%)となりました。